



そら豆

そら豆は 空に向かって 豆がなります。また 腎臓の形は そら豆に似ています。皆様の 気持ちも 上を向きますように...

ご挨拶

青陽 光

透析患者様、ご家族の皆様のご支援・ご指導を頂
きながら、看護の責任者として少しずつでしたが、
未熟ながらもお役に立てるようになったかなと感
じ始めた矢先に、皆様にご挨拶が十分出来ないまま
部署異動になりましたことを心よりお詫び申し上げ
ます。短い期間でしたが、皆さまの生活の一部であ
る「透析」の時間を共有しながら、多くのことを学ば
させて頂きました。この学びを今後の看護に活かせる
ように頑張りたいと思います。最後に部署は変わり
ましたが、透析患者様・ご家族の皆様が当院で安心
して「透析」を受けられるよう技術や看護支援がで
きる体制作りをさせて頂きます。今後とも変わらぬご
支援・ご指導を宜しくお願い致します

透析技術認定士試験 合格

透析センター所属となり、数年が経過しました。

この度、透析治療についての知識を深めたいと思い
右記資格を取得することを決意しました。なかなか
記憶することが難しく、苦勞しました。今まで知ら
なかったことも多く、とても勉強になりました。こ
れからは、皆様の看護に生かされるよう、頑張つて
いきたいと思ひます。

海野弘美 河内和子

院外処方 開始

発刊：
済生会今治病院
透析センター
代表：
透析センター長
大本 昌樹
患者数：
233名 (10/26 現在)

10月から院外処方という方法に、当院も切り替
わりました。この点で、患者様にはご足労いただか
なければならぬ、同じ説明を薬局でもしなければ
ならないなど、ご負担をおかけすることになると思
います。

そもそも、院外処方となった経緯として、厚生労
働省の働きがあります。患者様に重複したお薬の処
方がされないよう、また飲み合わせの悪いお薬が他
院と併用処方されないよう、二重三重の眼で確認が
出来るようにするためでもあります。患者様により
安全で安心な医療を提供する一環の動きであること
ご理解いただきたいと思います。また病院が閉まって
いる時間帯や曜日でも、選んだ薬局によっては処方
してもらえます。ファックスやスマホのQRコードを
利用すれば時間が短縮できるなどの利点もあります。
薬の説明を詳しく聞いたり、飲み方の相談なども対
応してくれます。かかりつけの院外
薬局を決めていただく初回は
申請やお話を伺うのに時間が
とられる可能性があります、
よろしくお願ひ致します。



ニューフェイス紹介



栄養部 金子 由季

今年の4月から、透析センターの栄養士をさせて
いただいております。前任者と異なり、透析センタ
ーに常勤出来ていないため、お会いする機会が少な
くなっていきますが、どんどん皆さんと話しをして、
親睦を深めていければと思います。皆さんの一人一
人の生活に合わせた食事療法をお伝えできるよう、
努力していきます。私を見かけましたら、気軽に声
をかけてくださると嬉しいです。これからよろしく
お願ひします。



看護師 小野田 紗代

8月中旬から6階病棟より透析センターに移動に
なりました。以前、透析に携わった事はありますが、
忘れていた事も多く、分からない事ばかりですが患
者様が安全に透析を行えるように、サポートしてい
けたらと思っております。よろしくお願ひ致します。

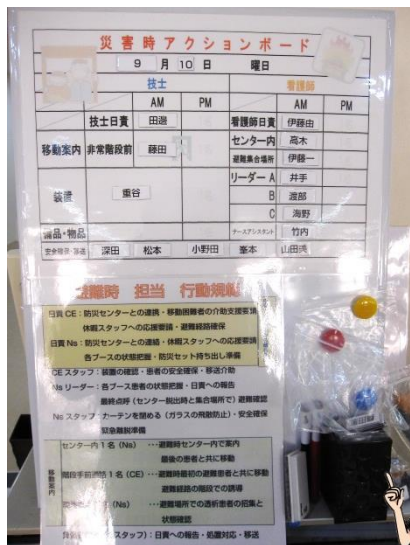


災害シミュレーション

9月10日 日曜日

前年度に引き続き、災害シミュレーションを患者様と一緒にすることが出来ました。当日は患者会の行事と重なってしまいましたが、前年度ほどの参加人数とまでは至りませんが、新しく透析を始めた患者様や、ご家族の参加もあり、少しは災害に対しての興味を深められたのではないかと思います。

災害は、いつ どこで どんな風にかかるかは見当が付きません。また私達スタッフもどう動くか、その時が来てみないとわからないことだらけです。けれども事前に「こうなった時」を想定して、訓練しておけば、少しは冷静な判断につなげられることを期待しています。



前年度にはなかった「災害時アクションボード」を設置することによって、スタッフの役割を明確に分担することが出来ました。10月からは、このボードを活用し、日々の防災につなげたいと思います。



昨年度は行わなかった、担架での移動を行いました。一人を運ぶのに4人のスタッフが必要であり、人員的な問題などが浮き彫りになりました。今後、更に検討していくべき課題となりました。



普段は触る事のない器械のクランク操作です。器械の異常時や、または停電によるポンプの停止時に

患者様自身に回していただく可能性のある動作です。シャントのない方の腕で操作する必要があります。触れたことがある物と、そうでない物にいきなり触れるのでは、気持ちの上で大きな差が生まれます。落ち着いて対応していただくために、まず触れることで慣れていただきました。

防護体制



患者もスタッフも護身
 布団を頭から被り（頭部保護）
 血液回路を持ち（抜針防止）
 柵を掴む（転落防止）

地震が起こったと想定し、防護体制をとりました。この時スタッフも身動きがとれない状況に陥ると考えられます。低い姿勢を取る。落下物から身を守る。落ち着いて周りの状況を把握する。など、冷静な判断が求められます。



一次避難の完了と点呼



安全に止血確認

皆様が参加してくださったことにより、今後の課題や改善点が明確になりました。お休みの時間に都合をつけてくださり、本当にありがとうございます。今後もより一層の安心と安全に心がけて検討していきたいと思えます。ご協力をよろしく願います。